

## 生まれてきた理由(ルカ 1:8-20)

なぜ自分はこの世に生まれてきたのか。自分は何のために生きるのか。これがわかっていない人は、世の中を生きるけれども、世の流れにそのまま流されるようになってしまいます。面白くない、意味のない人生を送ってしまいます。そして、なぜ自分は生まれてきて、何のために生きるのかに対して答えが間違っていると、一生懸命、頑張っただけでも空しい人生にならざるをえません。今日の聖書の箇所を通して、私たちはなぜ生まれてきて、何のために生きるのか、その理由は何なのかということを確認して、私たちの契約として心に留めていきたいと思えます。

今日の聖書を見ますと、キリストであるイエス様がこの世にお生まれになる前にバプテスマのヨハネが誕生することを、その父親に天使ガブリエルが現れてそれを伝える場面です。これからあなたを通して生まれる男の子、その子が多くの人を神様、キリストに立ち返らせる働きをする者なので、そのために生まれてくる子どもも喜びだし、あなたも多くの人々の喜びになるはずなんだという神のことばを知らせました。しかし、その父親ザカリヤは、「私の年が今いくつなのか知っていますか。妻も年寄りです。これで子どもを産むというのはあり得ません。どういう話なのでしょう」と疑って反論しました。その時にガブリエルが、「私は神から遣わされたガブリエルなんだ。これは神のことばなんだ。だから神のことばはその通りになるものなんだ。でも、あなたは信じなかったのだから、このことが実現されるまでものを言えなくなるよ」というふうに言われて、その時からバプテスマのヨハネが生まれるまでザカリヤはものが言えないまま生活することになってしまいました。このバプテスマのヨハネの誕生のお話を通して、私たちはこのような答えを迷うことなくしっかりと握ることになります。

### 1. 自分が生まれてきた理由は「キリストのため」と答えを出す信者は最高の人生を生きることになる。

その第一は、自分が生まれてきた理由は、キリストのためなんだ。キリストのためです。この答えを出している信者は、最高の人生を生きることになります。自分自身はもちろん最高の喜びの人生であり、親にとって、世の中の多くの人にとって喜びの人生を送ることになります。誰がでしょうか。自分が生まれてきた理由がほかの理由ではなくて、キリストのためなんだと、この答えを出している人。言葉を変えますと、信者なのにその答えを出していない場合は、未信者と同じように無駄な人生、空しい人生を送るしかないし、世の嵐に流される残念な人生を送ることになります。私たちが今まで、また今現在の世の中の人々は、さまざまな生きる理由などを持って頑張っています。

#### 1) 平凡(世)な理由

それを平凡な理由と言っていいかわかりませんが、世にある生きる理由、生まれてきた理由というのはいろいろありますけれども、それをまとめますと、結局は自分が上手くいくために、自分が良くなるために、自分が幸せになるために、という理由なのです。それから、より裕福に豊になるために、それに集約されることだと思えます。また、成功を収めるために、世の中において認められる成功を収めるために。大体このような理由で生まれてきたと思うし、生きる理由がここにあると思えます。なぜでしょうか。自分さえ良ければ、肉体的に裕福になれば、成功を収めてこの世で認められることになれば幸せになると思い込んでいるからです。それは本当に幸せの材料になるものなのでしょうか。もちろんそれが一般的に全部デタラメな汚れた理由とは言えません。普通に考えて健全な理由もたくさんあります。しかし、その範疇は結局は自分が良くなるために、裕福になるために、成功するためにというような理由の枠の中にあるものなのです。私たちはそのような理由で今まで人生を生きてきたかもしれません。残念なのは信者なのに、今現在も生きる理由がそういうもののままの信者も少なくありません。

#### 2) キリストのために-多くの人をキリストへと

しかし、今日限り、私たちが生まれてきた理由、信者がこの世を生きる理由は、今まで私たちが持っていた理由、世の中で当たり前平凡に言われているそのような理由ではなくて、キリストのために生まれてきたんだ。バプテスマのヨハネだけではなくて信者はみなキリストのために生まれてきて、キリストのために生

きる者なのです。これこそが生きる理由であり、最高に価値ある人生の理由になります。キリストのために生きるというのは、具体的にどういう内容なのでしょう。いろいろあるでしょうけれども、今日のバプテスマのヨハネの生まれてきた理由、ガブリエルという天使が教えてくれた理由から考えてみると、キリストのために生きるというのは、24時間キリスト、キリスト、キリストと唱えることではなくて、多くの人がキリストに立ち返るように手伝うこと。これがキリストのためなのです。なぜでしょうか。キリストは多くの罪人が救われるためにこの世に來られて十字架で死なれた方なのです。なので、そのキリストのためということ、多くの人がキリストに立ち返るように、そのような人生を生きることなのです。世の中にはさまざまな人間が生きています。しかし、すべての人が神様を離れてサタンに隷属になり、自分ではどうしようもできない地獄の運命に囚われて人生を生きています。そして、そこから一步も出られないように、悪魔サタンというものは蓋をしているのです。宗教を作って、占いのようなものを作り出して、偶像などを作り出して、それに拜むようにして、それを特に文化として定着させることで蓋をして絶対にそこから出られないように枠を作っているものなのです。その枠の中に閉じ込められて生きていくものなのです。なので、いくら幸せになろうと頑張っても、結局は疲れて重荷を背負うしかありません。人々に真の幸せはありえません。真の平安と安らぎなどは1mmたりとも見ることができないのです。そのような人生を送り、最終的にはさばかれて永遠の地獄に行く運命に囚われて生きていくし、このようなすべてが子孫たちに遺産として受け継がれていくようになります。これが世の中にいる人々なのです。社長さんでも社員でも裁判官でも刑務所にいる囚人でも政治家でもホームレスでもみなが一緒なのです。クリスチャンでも世の中の人々、人間というのがどのような存在で、どのような人生を歩いているのか、これがわかっていないと生まれてきた理由も生きる理由も正しく見つけることができません。自分の力ではどうしようもできません。頑張れば頑張るほど沼に溺れているようなことと同じように、どんどんハマっていくことになります。精神的にも肉体的にもさまざまな面において崩壊していくようになります。このような人々が生きる道は、キリストの他にはありません。神の子が現れたのは、悪魔のしわざを打ち壊すためです。キリスト・イエスによってのみ死と罪の原理から解放されることができるところです。それ以上、人間に大切なことはありません。食べることより、結婚することより、勉強することよりキリスト・イエスを通して救われて解放され、いのちの祝福に預かることより大切なことは人生に存在しません。だから、信者がこの世に生まれてきた理由は、このような人々が助かるために、生きる道、唯一の道イエス・キリストへと彼らを導くために生まれてきた者なのです。人が世に生まれることは、人間的には自分で選んで生まれるわけではありません。どこの国でどこの親元で生まれるか。もちろん神様の導きなのでしょうが、生まれてきたら親が自分を捨てる場合もあります。生まれて来てみたら、親がアルコール中毒の場合もあります。りっぱな親元で生まれる場合もあります。どのように生まれたのか、それは関係ありません。生まれてきた理由は、キリストのためなのです。これを忘れないように。そのときから人生が正しく編集されることになります。自分の人生を正しく見るようになるようになります。結論のところでも申し上げますけれども、自分の過去、現在、未来、その人生を正しく編集しない限りは、正しくスタートすることは難しいのです。どんなことがあったとしても。キリストのために。この理由を持って人生を再解釈しないと行けません。そうでないと教会に通っていても悪魔のえじきになってしまいます。非常に大切なのです。なぜ私たちは生まれてきたのでしょうか。なぜこんな家庭に生まれてきたのか。そのように嘆く理由などありません。キリストのために生まれてきたのです。そのキリストのために生まれてきたということがわかったときに、自分の人生のすべてがこのことのために存在するんだということに気づいて、だから自分の人生のすべてを大事にして愛する人になります。これは人間的に自己中心に自分の欲によって執着して愛するということは次元が全く反対の話です。勉強もこのためにやるものです。例えば病気が許されたときも、それもこのためなんだ。病気が好きではありませんが、大事に大事に扱い愛することになります。才能を考えるときにも、このための才能なので大事なのです。学生さんがなぜ勉強をしないのでしょうか。勉強をして成績が上なのか下なのか関係ありません。この勉強が今の段階ではキリストのために生まれてきた私にとって、そのための道具、ツールになるものなので大事にすることがレムナントのスタンスなのです。仕事もそうでしょう。仕事が楽しい人もいるでしょうけれども楽しくない人もいるし、自分の性に合わない場合もあるし、また同じ仕事の仲間が気に入らない場合もあるし、いろいろあるかもしれません。それが世の中なのです。しかし、クリスチャンの私たちは、自分がキリストのために生まれてきて、そのために生きる者なので、すべてがキリストのためなので大事にするのです。だから神様に祈るわけ。神様の計画は何でしょうか。何事にも振り回されることなく、潰されることなく、荒野の40年間、イスラエルの民がつぶやきつつさまよっていたようなことをしないで、キリストのために

生まれてきた。だから、皆さんの人生はすべてが大事なものであり、愛すべき愛しいものだということを心に覚えましょう。

### 3) 教会のために

そして、この多くの人がキリストへと導かれるように、そのことのために神様がこの地上に建てられた唯一の機関が教会なのです。教会を正しく理解しないといけません。表ばかりを見て教会がああだこうだと判断することは間違いなのです。だから自分がキリストのために生まれてきたということが確認できている信者は、教会のために生きるようになります。そういう意味で牧師のためにではなくて、教会がどれほど大切なところなのか、他のどのような団体、どのような組織とも比べることができない大切なキリストのからだなる神様ご自身が自ら建てられたキリストの血をもって買い取られたものと言われるところなのです。なぜなら教会だけがサタンに囚われている多く人をキリストへと導くことができる唯一のところだからです。これより大切なものがないと結論が出ていないから教会を勝手に扱うそういう愚かなことになってしまうのです。キリストのために生まれたことがわかった人は、教会のために生きるようになります。それで教会のために献身をすることになります。それが教会のための献身というものなのです。あらゆる意味で必要な奉仕が何なのかを見つけて奉仕をすることになります。また、みことばの働きに携わることになります。そして、必要なときに経済的に献身することになります。車の調子が悪くなって車の買い替えの時期になっているんだと思って、いくらぐらいで買えるかといういろいろ調べていたら「もし教会の予算で買うのであれば、三つの庭のための礼拝堂の予算が削られることでしょう。だから私を買ってあげるよ」ということで娘が買ってくれました。このような形の献身というものもあります。前にもお話したように、自分で考えたときに牧師の場合はお金がないし、年金などは最初からないものなので老後のための積み立てが今までありました。その積み立てと少しあった貯金を合わせて1000万ぐらいは出せるかと思って、1000万献金をすることにしました。そういう形もあります。自分が生まれてきた理由が福音宣教のためなんだ。そのために神様が建てられたところが教会なんだということがわかって、その価値がわかって献身をするわけです。いろいろな形があるでしょう。貯金がいぶある人はエステルのようにこれが今のこのときのためのものではないかと考えて祈ってみてください。しかし、一日食べていくことに精一杯な方々は、改めて福音宣教のために、教会のために経済的に捧げることができるようにという思いをしっかりと持って祈りを改めてみてください。無理はしなくてもいいです。献身というのは祝福であり、チャンスなのです。ある人は捧げられ、ない人は捧げられない。そういうことはありえません。信仰によって行うものなのです。価値がわかっているから。それぞれの立場で、それぞれ神様から示されて捧げられる献身のさまざまな形があると思います。それをこれから祈っていきましょう。

### 4) 加えて与えられる人生

このようにキリストのためにという確かな理由を持って生きるときに、聖書の約束通りにそれらのすべては加えて与えられると言われているように、本当にその人の人生は何を食べるか飲むかを心配するのではなくて、裕福なのかどうかにこだわらず、加えて与えられる人生を歩くようになります。つまり、世にある物に対しての執着や未練から解放されて、すべてをツール、道具として受け止めて生きようになり、それを余裕と言います。それこそがクリスチャンの素敵な人生と言えるものです。キリストのためにという答えを出している人は、余裕ある人生、世界で一番素敵な人生を生きることができるようになります。バプテスマのヨハネは、そのような理由で生まれるよと知らされることになったわけです。しかし、ザカリヤは人間的には当たり前でしょうけれども、今の私の状況からはありえないことでしょうと疑っていたのです。

## 2. 自分の計算(限界)による不信仰さえ捨てれば、この祝福を実際に体験出来る。

二番目です。このキリストのために生まれてきた、生きるという答えを出している人は、自分の計算、その計算、限界による不信仰さえ捨てれば、この祝福を実際に体験できるようになります。問題は不信仰です。神様がおっしゃった言葉は、来週も申し上げるつもりですが、すべてがそのとおりになるので、こちらでは1秒たりとも理解しようとか計算する理由などありません。もともと私たちの理解には当てはまらないものなのです。無条件アーメン、信仰によって。自分の計算、自分の限界に照らして生まれる不信仰、それさえ捨てればこの祝福を体験できるようになります。私たちはつい今までの生きてきたその癖のまま判断してしまいます。それはサタンのやぐらとも言えるし、古い人とも言います。

## 1) 条件や環境、状況による不信仰

条件や環境、状況によってすべてを判断してしまうのです。それは人間のことなのです。神様がなさることは、それに当てはまることなどはありません。条件、環境、状況による不信仰、それさえ捨てれば、私のような人間がキリストのために、多くの人をキリストに立ち返らせるということが出来るかと。そうすると何も言えなくなります。こんな環境で福音宣教などあり得るのでしょうかとみなそう思っているでしょう。だから皆さんは、神のことば、いのちの言葉が言えなくなっているのです。いま普通にしゃべっているでしょうけれども、それがしゃべることではありません。物が言えない、そういう信者ではないでしょうか。状況があまりにも厳しくて険しいから福音宣教、伝道などはあり得るのでしょうかとついつい思うわけです。天使が言いました。そこにそういうお話はありませんが、あなたのお話はもっともだよ、人間的には。しかし、私は神から遣わされたガブリエルなんだよと。これは神の約束であり、神のことばなんだから。話はそこでガラリと変わることになります。それが信者です。世の中の人はいくつも理解できないでしょう。来週もそういうお話なのですが、私がいちばんそれに引っ掛かっていた者なのです。神のことばをとにかく理解しようとしてしまうのです。私の理解に当てはまるのであれば、神はもはや神ではありません。アーメンと信じないといけないのに、今までちょっとした勉強をした知識があるから、少し頭がほかの人より論理的だという自負があるから、何でもかんでもそれに当てはめようとするから、この貴重な人生の時間を無駄に流してしまうことになります。アーメンすればいいのに。理由も理解も何もありません。アーメンなのです。それでガブリエルは言いました。あなたの口が聞けなくなるよと。つまり不信仰を閉じこめるということです。紅海の前でイスラエルの民が私たちはもう死んだ。だめだ。何でエジプトで死んでもいいのにここまで連れてきて、紅海の水の中で私たちを死なせるつもりなのか...いろいろなことを言っていました。そのときモーセが言いました。黙っていて神様がなされること見なさいと。不信仰に対しては黙っていてと。エリコ城をぐるぐる回るように指示されました。そのときに条件が一つありました。人数は結構多く、何万人ものイスラエルの民がぐるぐる回っているときに、ひとりでも「これ回るか？何になるの？何やってんだ？」としゃべると、それがどんどん伝染病みたいに広まるようになります。なので、回る時に私たちの理解では到底理解できないことなのですが神様の指示なので、条件は一つ。何もしゃべるな。黙って回りなさい。不信仰を閉じこめるということです。

## 2) 不信仰を殺して-口がきけない

イエス様は最後におっしゃいました。40 日の間、このような神がなさることをずっとお話をしていってしゃべったにもかかわらず、「イスラエルの国がこれから解放される時でしょうか」とかなんとか言っていたわけです。そのときに「それはあなたがたは知らなくていいよ。黙っていなさい」と。私たちの不信仰に蓋をして閉じ込める。もう少しひどい言葉で申し上げると、不信仰を殺してしまうことさえあればバプテスマのヨハネに預言されていた、その言葉通りに体験できるようになります。つまり、私たちを通して多くの人々がキリストに立ち返ることを体験できるようになります。それをいのちの運動と言います。そのためにまずは礼拝を捧げている皆さんにみことばが入って、それをアーメンとしない限りは自分の心に入らないのです。入ってそれを黙想することでみことばが皆さんの内側で動き出して運動すると、必ずいのちの運動につながりますので。それを聖書的伝道運動と言います。難しいことではありません。なぜみことばが礼拝を捧げているのに私の内側で運動にならないのでしょうか。信じないからです。聞くときから日本人らしく。韓国の人は愚かなものなのですぐにアーメンとなるのです。その後、守らないことが多いのでしょうかけれど。日本人はとりあえず一回は置いといて、検証して、石橋をたたきながらというのが日本人なので、神のみことばなのにとりあえず受け入れるのではなくて、心の前に一度留めといて、耳のあたりで一度留めといて、ワンステップ置いてという性格があるのです。世の中のこと、人の言葉はそういうふうにしたほうがよろしいです。それは得するのです。それを神のことばにも適用しようとする、いのちの運動に繋がらないのです。私たちの生きる理由、教会が建っている目的はいのちの運動です。どこででしょうか。皆さんがいらっしゃるその現場で必ずいのちの運動が行われるはずなのです。でも、そうでないのは、まず自分がそのために生まれてきたというアイデンティティがまだ明確になっていないから。そして、そのことが神様から講壇を通してずっと語られているのに自分のものになっていません。なぜでしょうか。不信仰のゆえに。そこを変えればいいのです。

### 3) 神様の約束は神様の力で-無条件、絶対

神様の約束は人間のことばとは違います。人間のすべての計算と理解を超越して、神様ご自身の全能の力によって全うされることなので、神の約束のみことば、無条件、絶対なのです。どうしても私がそういう人間だったので、少し世の中で賢い言われて、少し頭がきれていて、いろんなことを考えられる能力を持っている人は、どうしても絶対と無条件にならないのです。それが実はサタンのやぐらなのです。それで神様は最初、救いに人々を召されたときに愚かなもの、貧乏な人間、無知な人間、そういう人々を先に集められました。

### 4) 証拠-人の計算では不可能な状況から不可能な人を通して

聖書には、また歴史にはそのような証拠がたくさんあります。人の計算では不可能な状況から神はなさいました。人の理解では不可能な人を通してなさいました。モーセは80歳になったときに神は始められました。ダビデは一番下っ端の羊飼いと仕事をしていたときに、神様はダビデを選んで用いられました。そしてイエス様が弟子たちを召されたとき、ほぼ乞食のような人間ばかりだったのです。その弟子たちを通して世界福音化の門が開かれることになりました。先ほども申し上げましたように、初代教会は迫害されている状況、また乞食のような人間ばかり集まっていて身動きが取れない、そういう不可能な状況で始められたわけです。Only 聖霊が臨まれると、地の果てにまで証人となりますよ。なので、皆さんもその通りになるはずなのです。なぜそうならないのか。これを聞いている今でも自分の理解が先走ってしまうからです。アーメンにならないのです。キリストのためという理由で人生を編集しましょう。皆さんのいかなる過去も、キリストのための、福音宣教のための材料でした。今現在どういうことがあろうが、良し悪し関係なくすべてはキリストのために、つまり人々のいのちを助けるための旅程なのです。勝手に是々非々等々判断しないように。そして私たちの未来は、このキリストのためになのです。いのちの運動の答えがどんどん進んでいくために用意されているものなのです。このように人生を編集しましょう。キリストのためという理由で。

それで今日から具体的に自分の現場と自分との間にある不信仰の大きな壁があります。それが崩れるように祈っていきましょう。キリストの御名によって崩れるように。教会と現場との間に不信仰の壁があります。これは素直に頷いて認めざるを得ないでしょう。現場にいるのに不信仰の壁があつてここでいのちの運動などはありえません、と私たちが信じているからサタンはそのとおりだよと騙します。崩れるように祈りましょう。その現場は、実は神の宝が隠されている現場なのです。そして永遠のいのちに定められているたましいが待っている現場なのです。神の願いが成就する現場なのです。そこに遣わされていのちの運動に用いられることを信じて祈る、そのような信者になりましょう。なぜでしょうか。私たちはそのために生まれてきたので、他に理由などありません。

#### (祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。私たちがこの世に生まれてきた理由、生きる理由をキリストのためというふうに明確に整理して心に留めて、そして現場と自分との間にある不信仰の壁が崩れることを祈り、いのちの運動が行われる約束を信じて、そのために私がそこに遣わされて生まれてきた者なんだという確信を繰り返し告白しつつ、いのちの運動の主人公となるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。